

第 6 回御嶽山噴火に伴う木曽川上流域水質保全対策検討会

検討会結果概要

(確認事項)

1. 木曽川の水質状況について

- ・ 8 月の水質調査結果（定期監視）によれば、pH については、王滝川でやや低い傾向が続いている。濁度については出水時に一時的に高い値となるものの、魚の斃死や利水取水に大きな影響を与えておらず、木曽川本川では水質上の大きな問題は発生していない。

2. 牧尾ダムの水質調査結果について

- ・ 定期的な水質調査結果から、牧尾ダム貯水池の流入濁度については、噴火直後の平成 26 年 10 月の台風 18 号、19 号出水時に発生した濁度が最大で、その後、出水時の濁度ピークは下がりつつあり、これを上回る状況は発生していない。
- ・ pH については、牧尾ダム貯水池上流からの流入水に依然 pH 6.5 を下回る傾向が続いており、特に出水時にはゲート放流水が pH 5.0 を下回る等、一時的な低下が見られる。一方、他の流域の影響を受ける落合取水口や兼山取水口など木曽川本川では、環境基準値を下回る状況はほとんど発生していない。
- ・ しかし、本調査結果は、噴火後 1 シーズンの結果であることから今後も継続して水質状況を把握していく必要がある。

3. 牧尾ダム利水放流設備の点検放流の実施について

- ・ これまでの点検放流の実施状況と水質調査結果を踏まえ策定した点検放流実施基準に基づき、引き続き点検放流を実施する。
なお、点検放流中において中止基準に達した場合には速やかに点検放流を中止する。

4. 今後の対応について

- ・ 水質異常時の判断基準を設定し、また判断基準を超えるような場合には関係機関で情報共有するための連絡体制を構築した。併せて、火山噴出物による水質への影響が発生した場合に各機関で実施する水質異常時の行動計画を確認した。
- ・ 水質保全対策について、更に検討を要する場合には、検討会を開催する。